

平成28年第4回尾鷲市議会定例会会議録

平成28年12月7日（水曜日）

○議事日程（第4号）

平成28年12月7日（水）午前10時開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

○出席議員（13名）

1 番 真 井 紀 夫 議 員	2 番 内 山 鉄 芳 議 員
3 番 中 平 隆 夫 議 員	4 番 田 中 勲 議 員
5 番 小 川 公 明 議 員	6 番 濱 中 佳 芳 子 議 員
7 番 三 鬼 和 昭 議 員	8 番 南 靖 久 議 員
9 番 榎 本 隆 吉 議 員	10 番 高 村 泰 徳 議 員
11 番 奥 田 尚 佳 議 員	12 番 三 鬼 孝 之 議 員
13 番 村 田 幸 隆 議 員	

○欠席議員（0名）

○説明のため出席した者

市 長	岩 田 昭 人 君
副 市 長	林 幸 喜 君
会計管理者兼出納室長	北 村 琢 磨 君
市長公室長	大 和 勝 浩 君
総 務 課 長	下 村 新 吾 君
財 政 課 長	宇 利 崇 君
防 災 危 機 管 理 室 長	神 保 崇 君
税 務 課 長	吉 沢 道 夫 君
市民サービス課長	濱 田 一 志 君
福 祉 保 健 課 長	三 鬼 望 君

環 境 課 長	竹 平 專 作 君
水産商工食のまち課長	野 地 敬 史 君
木のまち推進課長	内 山 真 杉 君
建 設 課 長	上 村 告 君
水 道 部 長	尾 上 廣 宣 君
尾鷲総合病院事務長	内 山 洋 輔 君
尾鷲総合病院総務課長兼医事課長	平 山 始 君
教 育 長	二 村 直 司 君
教育委員会教育総務課長	佐 野 憲 司 君
教育委員会生涯学習課長	芝 山 有 朋 君
教育委員会学校教育担当調整監	山 本 樹 君
監 査 委 員	千 種 伯 行 君
監 査 委 員 事 務 局 長	仲 浩 紀 君

○議会事務局職員出席者

事 務 局 長	内 山 雅 善
事務局次長兼議事・調査係長	高 芝 豊
議 事 ・ 調 査 係 書 記	松 永 佳 久

[開議 午前10時00分]

議長（真井紀夫議員） おはようございます。

これより、本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は13名であります。よって、会議は成立いたしております。

最初に、議長の報告ですが、お手元の報告書は、朗読は省略し、これより議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元の議事日程第4号により取り進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、日程第1、「会議録署名議員の指名」を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第87条の規定により、議長において7番、三鬼和昭議員、8番、南靖久議員を指名いたします。

次に、日程第2、昨日に引き続き一般質問を行います。

最初に、8番、南靖久議員。

[8番（南靖久議員）登壇]

8番（南靖久議員） おはようございます。

連日マスコミを騒がせております東京都の小池知事が、12月本会議の冒頭に、華やかな議会を行いたいというような言葉があったようですが、私は師走ということで、終始華やかではなく、爽やかな質問に徹したいと思っておりますので、おつき合いのほどよろしくお願いいたします。本当にやります。爽やかにやります。

「この道や行く人なしに秋の暮れ」。この句は、芭蕉が亡くなる一月ほど前につくられた句で、芭蕉が最晩年の心境を晩秋に詠んだもので、事実上の辞世の句と言われております。物寂しい秋の夕暮れ、行く人もいない一筋の道がかなたへと続いている。俳諧の道も人生と同じように、暮れやすく孤独であるとの意味合いを持つ句だと解説をされております。

ことしも残すところ約3週間、最近やっと晩年を感じる時期となりました。世界的な地球温暖化の影響で、近年、春夏秋冬の四季の移り変わりが鮮明に感じられなくなってきました。1年の中に春夏秋冬の四季があるように、人生においても人生の四季があると言われております。青春、朱夏、白秋、玄冬とあらわし、人生を青、赤、白、黒の4色で表現しております。人生の四季は1回限りで、人は皆いずれの季節を今生きています。しかし、中には若くして逝き、白秋や玄冬を見ずに終わる人生も少なくないのが現実であります。

私事ですが、ことしはひのえさるの年。昭和31年生まれの私も61年ごとに回ってくるひのえさるのえとに戻り、ことし還暦を迎えました。人生の四季では50歳から70歳は白秋に当たり、玄冬はそれ以降だと言われておりますので、とりわけ私は白秋に属しております。

ことしのえと、さるといえば、日光東照宮の三猿、見ざる、聞かざる、言わざる、この三猿は故事的には美德の象徴とも言え、他人の欠点を見ず、その欠点について聞かず、その欠点を語らないことが品位ある振る舞いとされております。

しかし、市政運営に携わる議員としては、時として三猿を決め込むわけにはいかない事態に直面することが多く、市民目線で物事を判断し、是々非々の立場を明確にするのが議員の使命だと自覚をいたしております。

来年のえとはとりで、鳥は人に時を知らせる、取り込むとも言われ、商売的には縁起のいいえとの意味合いを持っております。尾鷲市政も来年度からスタートする後期基本計画が鳥のように羽ばたく力強さで市民から信頼、指示される市政推進に向けて、二元代表制である市長と議会がお互いに切磋琢磨しながら当市の諸課題に取り組んでいくのが本来あるべき姿であり、私ももとより浅学非才の身ではありますが、残された任期、議員としての矜持を保ちつつ、皆様とともに市民福祉の充実に取り組んでいく所存でございますので、今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、質問通告に従い、岩田市長の政治姿勢と後期基本構想についてお伺いいたします。

私の質問は、昨日の中平議員の質問とほとんど重複しますが、できる限り私なりの観点で行いたいと思いますので御理解を賜ります。

先日開会された本会議の市政報告で、市長は2期目の政治公約の一つであった道の駅について触れ、防災機能を有する道の駅は市にとって必要な施設であるとの考えは変わっていないが、財政面や整備年数を考えると、残された任期も含め、総合的に判断し、現時点での整備方針の決定は避けるべきであるとの結論に至ったと突然表明をされました。

市長が構想していた二転三転する道の駅整備計画に消極的であった私は、以前から市民の合意形成のもとに進めていただきたいと発言をしていたので、土井見世邸の件もあり、別段市長の豹変に驚くこともなかったが、急に道の駅棚上げというか、市長選挙が終わるまで先送りと判断した市長の心中をいまだ読み取ることができません。私は、国が進めようとする防災機能については何ら反対するも

のではありませんが、市民や議会に市長の考えをぶれることなくしっかりとした説明責任を果たすべきであると感じております。

今回の道の駅整備先送りは、岩田市長の3選出馬への意思がかたく、このまま選挙戦に入れば、2期目の政治公約である道の駅は議会や市民から理解が得られていなく、道の駅整備計画が選挙の争点となり、選挙戦が不利に働くのではないかと市長自身の強い思い込みから急遽市政報告に入れたのではないかと一方では判断できますが、いかがでしょうか。市長の率直な気持ちを正直に市民の前に明らかにしていただきたいと思っております。

また、昨日の中平議員の、道の駅の設置場所、尾鷲南インター付近について、再考する意思がないかとの問いかけに対して、市長、あなたは仮の話だとも言いながら、道の駅の機能も含めて場所も見直す必要があると明確に答弁をされておりますが、本当に、本当に場所も含め、道の駅整備計画を根本的に見直す気持ちをお持ちですか。この問題は、あすの総務産業常任委員会の審査も残っていることからとても重要な問題なので、いま一度明確にお答えを願います。

次に、市政運営が問題なくスムーズに推進されれば、来年予定される市議選、市長選挙は前回同様に、経費の節減と投票率のアップ等の考え方により、市長任期が7月25日である50日以内の同時選挙となることは濃厚だと誰もが考えております。

仄聞するところによりますと、訴訟中である水道問題の判決が12月16日、議会最終日に津地方裁判所で判決が下されるそうです。水道部側の過失責任が発生しなければ何ら問題のないことですが、もし行政側に幾分かの過失責任が生じる判決が出た場合、市長として責任の所在をどのようにするおつもりなのか、お聞かせ願いたいと思っております。

次に、平成29年度当初予算編成については、市長選挙の年であり、骨格予算となることは理解をしております。

少子高齢化の著しい当市にとりましては、人口減少が一番の悩みの種であることは言うまでもなく、現状の推移が続けば2040年には市の将来人口が日本創生会議によると8,758人と予測され、消滅可能性が最も高い自治体の一つとして位置づけをされております。

平成の大合併の波に乗れなかった当市は、合併特例債の恩恵も受けることなく、病院経営を初めとして、今後予想される広域ごみ処理場や市庁舎整備など、依然として厳しい行財政運営が年々増していくことを誰もが予測しております。

一方、不名誉なことですが、平成22年4月に過疎指定を受けてからは、7割交付税算入が見込まれる過疎債活用事業を中心に過疎計画のもとに進めている現状です。しかし、漁港集落を多く持つ当市にとっては、押し寄せる超高齢化の波により、生活基盤整備費用のほかに予算的には果てしない防災減災対策費用等々が今後も考えられ、市民の意思に反して市の財政力で消化できる事業等はごく少数で、財源確保のためにも思い切った行財政改革は必須であることは論をまたないところであります。

そこで、後期基本計画のスタートの年である平成29年度企業会計、リニアック更新事業を含む当初予算編成に向けた市長方針を御説明していただきたいと考えます。

次に、質問事項の二つ目である後期基本計画の中から防災減災対策、食の拠点と道の駅施策の重点課題等について市長の考えをお尋ねします。

質問の前に、第6次尾鷲市総合計画審議会委員の皆様におかれましては、何かとお忙しい中を、第1部会から第6部会の1部会5名ずつの委員に分かれて、5月の総合評価から、7月から9月にかけての素案検討、そして11月までの素案審議、調整や市民からのパブリックコメントを経て、今12月議会に後期基本計画（案）の原案として提出されましたことに対しまして、大変高いところからですが、心よりお礼を申し上げたいと存じます。

災害は忘れたころにやってくる。1854年11月4日に発生した安政地震津波、マグニチュード8.4、尾鷲でも死者200人以上、流出家屋900戸以上の被害があつてから90年後の1944年、昭和19年12月7日午後1時35分、熊野灘沖約20キロにて発生した巨大地震津波、マグニチュード7.9、最大震度6、多くの死者、行方不明者を出しております。当市の被害も死者65人、流出家屋800戸以上の甚大な被害を出してから、きょうでちょうど72年目を迎えます。

三重県でも、きょう12月7日をみえ地震対策の日と定め、昭和東南海地震を風化させず、地震災害に強い三重を実現するために、さまざまな啓発活動を行っているようです。

尾鷲市としても、当時の大災害に対する認識を深め、防災対策をより強固にするためにも、本日12月7日を尾鷲市の防災の日と定め、いつ発生してもおかしくない南海トラフを起点とする巨大地震津波に備える訓練活動等をしてはいかがでしょうか。市長の前向きな御答弁を期待するとともに、当時災害に遭われた犠

性者の皆様方の御冥福を心からお祈りいたしたいと思ひます。

次に、防災減災対策についてお伺ひいたします。

前回9月の一般質問で述べたように、尾鷲市は来年度から平成33年度までの5カ年計画を整備目標とした尾鷲市公共施設中期耐震改修実施計画を策定しました。その中で位置づけられております築55年経過している市庁舎本館の整備についての質問に対して、市長は、合併した自治体のように有利な起債のない当市にあっては、庁舎整備に係る財源の確保は市政運営に多大な影響を与えるものと思われるが、市庁舎が使用できなくなれば一番の被害者は市民であることは熊本地震で明らかとなり、現在総務課を中心に庁舎等の整備についての検討を進め、熊本地震の後、東海財務局が公有財産の最適利用として市、国や県などの集約、複合する社会資本整備の話もあることから、本市にとっても最適な庁舎整備を国、県と連携して進め、耐震診断についても、これまで予算の無駄としていたが、国、県との協議の中で耐震性能を示す数値が必要になることから、有利な補助を受けられるよう、都道府県耐震改修促進計画に防災拠点として位置づけがなされるよう、県と協議中であるとの答弁をいただいております。

質問から3カ月経過する中で、市庁舎整備問題について、東海財務局や県との協議を初め、市民的に優先順位が高い市庁舎及び市立体育館等に対する整備計画や耐震診断等の実施について、現時点での考えをお示しいただきたいと思ひます。

東日本大震災の後、市民が最も優先的に整備を望んでいるのが津波浸水域への津波避難タワーの設置であります。

津波避難タワーの設置に関しては、市のほうでは公有地内3カ所に整備するとの計画もなされたようですが、最近では市民の要望とは裏腹に、津波避難タワーの整備については随分と計画から遠のいていったような感じがしますので、市長のお考えをお聞かせください。

次に、食の拠点と道の駅については、後期基本計画で食を共通とした総合的なまちづくりの位置づけ、地方創生への総合戦略の整合性を図りながら推進するものとされております。

市長が描いている港周辺への食の拠点施設整備に向けて、尾鷲商工会議所を初めとする関係者の方々との協議はどのように進んでいるのか、お聞かせを願ひたいと思ひます。

市長は残された任期中、道の駅整備については一時棚上げするとの説明をしておりますが、食のまちづくりの取り組みの中で、道の駅がゲートウエーとしての

役割を果たす施設として必要だと何度となく聞かされた記憶が鮮明に残っている中で、いとも簡単に軌道修正できる市長の判断力には唖然とします。市長が描こうとしていた道の駅と食のまちづくりに関する整合性について、いま一度お聞かせを願いたいものであります。

最後に、後期基本計画のスタートとなる来年度から平成33年度までの5カ年間、当面する市の諸課題に対する優先順位と重要課題について、市長の見解を求め、壇上からの質問にかえさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長（真井紀夫議員） 市長。

〔市長（岩田昭人君）登壇〕

市長（岩田昭人君） まず、道の駅の棚上げ宣言は、市長選に不利に働くとの思いから急遽、市政をここに入れたのではないかという御指摘についてであります。

市政報告でも述べましたとおり、私としては、防災拠点機能を有する道の駅は本市にとって必要な施設であるとの考えは何ら変わっておりません。市長選への出馬が白紙の状態であり、市長選に不利になるので棚上げするという考えは一切ございません。

昨日、中平議員に答えました場所の見直しも含めてということでもありますけれども、防災機能とかゲートウェイ機能ということであれば、今、お示ししている場所が最適だとは思いますが、しかし、皆さんの御理解を得るとかそういった中で、機能あるいは役割分担とかそういったものを見直す中で、場所についても一から見直す必要があるのではないかということでもあります。

次に、本市が訴えられた損害賠償請求につきましては、本市の不正行為によるものではないとの判断により、裁判を争っているところであり、12月16日の判決を見守っているところでありますので、判決文を精査した上で正式なコメントを発表する予定であります。

次に、新年度予算編成についてであります。

新年度は、第6次尾鷲市総合計画後期基本計画の初年度であり、また、本年度に引き続き、人口減少対策を最重点課題と位置づけた尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略を総合的かつ戦略的に推進していくための予算であります。そのことから、当初予算編成方針では、各所属長に対し、これまでの事業成果を検証した上で予算計上するように指示を出しております。現在、各課から提出のあった予算要求書をもとに、財政課においてヒアリングを進めているところであります。

議員から御指摘のありましたリニアック更新事業につきましては、現在、尾鷲

総合病院の経営が極めて厳しい状況が続いている中で、更新によりさらに病院経営が厳しくなり、病院運営そのものに支障を来すことが予想されることから、病院事業会計独自の更新は難しいものと考えております。

また、一般会計におきましても厳しい財政状況でありますので、事業選択の優先順位の中で決定していくべきものと考えております。

しかしながら、私の任期が平成29年7月25日となっておりますので、当然、新年度予算は骨格予算であります。このことから、当初予算編成におきましては義務的経費を中心に予算編成を行い、加えて継続事業や市民生活に直結し、年度当初からの執行が必要な事業について予算化していく必要があると考えております。

次に、防災減災対策についてであります。

県では、昭和東南海地震が発生した12月7日をみえ防災の日と定めております。

東日本大震災から5年が経過しました。津波によりまちが破壊され、数多くの人命が失われたことがメディア等で繰り返し伝えられ、震災直後には市民の防災意識は急速に高まっておりました。しかしながら、時間の経過とともに防災意識も薄れつつありますが、防災減災対策に終わりはありません。

県では、日々の生活と一体的に取り組む防災の日常化の定着を図ることが重要であると考えており、本市におきましても、本日、中井町、港町において、夜間避難訓練を実施いたします。防災意識の向上を図るためにも、今後も防災教育や防災講話、防災訓練等を実施し、防災の日常化の定着を図ることが重要であると考えております。

次に、本庁舎等の整備計画についてであります。補助金や有利な起債がない本市にあっては、庁舎整備に係る財源の確保は市政運営に多大な影響を及ぼすことが懸念されます。

先月、中部地方整備局主催のまちづくり・住まいづくりに関する市町村長との意見交換会において、小中学校の耐震化や保育園の高台移転を優先し、耐震性に不安がある庁舎等の整備が後回しとなったことや財政的な問題など、本市の現状を訴えるとともに、庁舎整備事業費に対する補助金や起債に係る元利償還分の普通交付税措置などを時限的に創設していただくようお願いしてまいりました。

また、既存の国公有財産の最適利用ということで、津財務事務所に国交機関との合同庁舎建設の可能性等を相談させていただき、あわせて合併特例債並みの起

債の創設をお願いしたところであります。

今後も地元選出の国会議員や財務省、国土交通省、総務省など関係機関に対し積極的に要望を続けてまいりたいと思っております。

次に、耐震診断についてであります。現在、三重県建築物耐震改修促進計画に本市庁舎を防災拠点建築物として指定していただけるよう申請しており、指定されれば、補助率も2分の1に引き上げられるため、新年度中の耐震診断が可能になると思われま。

なお、耐震診断の詳細については、後ほど建設課長から説明いたさせます。

次に、津波避難施設整備についてであります。

防災減災対策につきましては、本年11月22日、中井町、港町地区において、五つの自主防災会長を中心に地区住民の参画を得て、第1回住民主導型避難体制確立事業を実施いたしました。

理論上、最大クラスの南海トラフ地震による津波の浸水想定や昭和19年の昭和東南海地震の津波体験談をもとに、地域の危険箇所についての洗い出しを行い、緊急避難場所への安全な避難ルートについて継続して検討を進め、この地域の避難ルートを確立してまいります。

また、避難路につきましては、第2回住民主導型避難体制確立事業において、緊急避難場所への夜間避難訓練を行い、緊急度の高いところから手すりの設置や新たな高台への避難路の新設等、順次整備を進め、当該地区の津波避難基本戦略を確立し、その後、補完的に津波から逃げおくれた市民や要援護者対策として津波避難施設等の検討を進めてまいります。

津波避難施設の整備につきましては、設置場所や規模も含め、今後も住民主導型避難体制確立事業において市民の皆様とともに検討し、慎重に進めてまいります。

次に、食の拠点施設の整備につきましては、市内における集客数のパイを奪い合うのではなく、地域外からの集客数をふやし、市内のパイをふやすことができる拠点であることが重要と考えております。

そのためには、民間の関係団体、事業者の活力やノウハウの活用が必要であり、地域が一体となったネットワークの強化が重要であると考えております。

このような中で、現在、食をテーマとした特産品や新たな飲食メニューの開発など観光集客や物産振興の事業について、尾鷲商工会議所を初め、関係団体や民間事業者等と連携しながら進めるとともに、食のまち尾鷲としての情報発信の強

化に取り組んできております。

今後とも、これらのソフト面を中心とした食のまちづくりへの取り組みを進める中で、商工関係団体や民間事業者、水産関係団体等とも十分な意見交換を行いながら、食の拠点の整備等につきましても、市内における機運の醸成につなげてまいります。

次に、道の駅と食の拠点づくりに関する整合性についてであります。

先ほども申し上げましたように、道の駅が必要だという考え方に何ら変わりはありません。道の駅の持つゲートウエー機能と食の拠点は相互に補完するべきものであり、そのことを踏まえて食の拠点づくりとの整合を図るべく検討すべきであると考えております。

次に、第6次尾鷲市総合計画後期基本計画における平成33年度までの諸課題に対する優先順位と重要課題についてであります。

後期基本計画においては、重点的な取り組みとして、前期基本計画に掲げているおわせ人づくりを効率的、効果的に推進するためのエンジンの役割として食を位置づけ、まちづくりの指針とするものとなっております。

加えて、基本計画における各施策項目の主な取り組み方針の末尾に、戦略、重点という表記を行い、それぞれの取り組み方針と食を推進エンジンとしたおわせ人づくり、加えて、人口減少社会に対応するための尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連性をより明確にしており、これらに示す取り組みが優先的に位置づけて取り組むべき課題であると認識しております。

なお、基本計画で示された取り組み方針に基づく具体的な事業につきましては、重点的な取り組みと総合戦略との関連性を踏まえ、予算面も考慮した中で実施計画において施策の評価も含めて毎年度検討してまいります。そういった中でも、防災減災、子育て支援については重要課題と認識しております。

議長（真井紀夫議員） 建設課長。

建設課長（上村告君） それでは、耐震診断について御説明いたします。

耐震診断とは、既存の建築物で旧耐震基準において設計された建物を現行の耐震基準と比較して耐震性を判定することを言います。

具体的には、予備調査といたしまして建築物の概要や使用履歴、増改築、経年劣化、設計図書の有無等の内容を確認した上で、現地調査といたしまして基礎や地盤、劣化状況、部材寸法や配筋状況、コンクリート強度試験、中性化試験等の調査を行いまして、これらの調査結果から構造計算により耐震性を検討し、その

建物の耐震性能を評価いたします。

この耐震性能は、地震力に対する建物の強度や靱性、これは変形能力とか粘り強さをあらわしますけれども、これらを考慮しまして、建築物の階ごとに算出したI s値、構造耐震指数により評価をいたします。最終的には、専門機関である判定会において、これらの調査検討結果が妥当であるかを確認していただくことになります。

次に、本庁舎の耐震診断費用についてですけれども、本庁舎は昭和36年度に建築され、鉄筋コンクリート構造の4階建てで、延べ床面積は3,218平米となっており、耐震診断業務委託費用としては約600万円ほど要するのではないかというふうに考えております。

以上でございます。

議長（真井紀夫議員） 8番、南議員。

8番（南靖久議員） 盛りたくさんの質問でございましたので、恐らく消化できないと思いますけれども、できる限り質問したことについては、簡潔に市長とやりとりしたいと思いますので、再度よろしくお願いします。

先ほど、道の駅のかかわりと市長3選出馬については、全く関係のないという市長の決意だと思いますので、それはそれとして市長の言葉を信じたいと思います。

しかし、きのうの中平議員さんの答弁の中で、三重県の亀山市長の例を出して、通常3カ月程度で表明するのがベターじゃないのかなというような御答弁があったんですけれども、前回市長が2期目の出馬表明をされたときは、12月定例会であったわけなんですね。そういった意味では、以前は6カ月以上前に表明し、今回はそういった三月前ぐらいで十分だというような、自分の強い、選挙に対して俺は負けへんぞと、新人らに言うておるような強い決意のもとを持っているので、私は出る出ないよりか、恐らく市長は3選出馬をするであろうと、ある意味では確信を持って今回質問に臨んでいることをまずは御理解を願いたいと思います。

それと申しますのは、先般11月でしたか、市長、台湾のほうに東紀州の活性化のチームで行かれたときに、市民文化会館で講演会、約130名を集めて尾鷲トレイルの、野田さんの講演を聞いたわけなんですけれども、そのとき、市長のメッセージとして、私、会場に出なかったものですから、新聞の記事しか、申しわけないんですけれども、私も尾鷲市を何とかしたいとの思いで市長になって7年が過ぎた。まだ課題が山積して頑張らなければならない。さらなる御支援をお

願いたいというような決意文を述べられたようでございますが、これを読む限りでは、やっぱり市長の3選出馬の意思がかたいなということが、僕は感じたわけなんです。

当然、市長の立場として、後期基本計画の中へ取り組んで、これからの向こう5年間の尾鷲市のあるべき姿を示していくには、来年度骨格予算であっても、やはり単年度単年度がすなわち実施計画だと思うんですね。そういった意味では、実施計画の数値については概算の概算だと思うんだけど、過疎計画の中である程度平成33年までのいろんな数値が示されておるのが現実でございますので、僕自身は、過疎計画の数値が、ある意味では後期基本計画の実施計画的な感じで進んでいくのかなということで、過疎計画の予算計上と基本構想をかみ合わせて判断しておるんですけれどもね。その点については、市長は過疎計画との総合計画の整合性はどのようにお考えですか。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 合併を選択せずきました尾鷲市にとっては、主要事業等を行う場合の財源獲得というのが一番大きな悩みであります。過疎計画につきましては、おおむね予算がかかるもの、それと大きな費用が必要なものを中心に挙げさせていただいているところであります。

それとあわせて、やっぱり補助金等の獲得、これも大きなあれですので、大きなものについては過疎計画とか、主要なものにおいては過疎計画にのっておりますけれども、しかし、金額が少なくても必要なもの、あるいはこの事業についてはどうしても過疎計画とは違う形でやらなければならないものというような形でのものはまた違うやり方ありますので、ある意味、大きな事業については過疎計画にのっているというふうに理解していただいたほうがいいかなと思います。

議長（真井紀夫議員） 8番、南議員。

8番（南靖久議員） わかりました。ある程度、過疎計画はできる限りのものを考えて、とりあえず計画書の中に入れたと理解をしておりますけれども、一方では、そのような感じで予算編成もしていく場合もあると理解をいたしたいと思います。

それはそれとして、先ほどの市長3選なんですけれども、恐らく出るであろうという気持ちに変わりないと思いますので、恐らく聞いたところで、市長は3月の定例会で述べるということでございますので、これ以上市長の3選出馬については時間の関係上割愛させていただきます。

ただ、恐らく今回もダブル選挙になると思うんですね。前回もたしか議員が8

日間余り失職して選挙を行ったということなんですから、一方、市民の中では、少数意見なんですけれども、やはり議会と市長選挙は分けて、しっかりとした観点で議員を選ぶ、また一方では、大事な尾鷲市のかじ取りの市長をやはり別々に選びたいという声も現実的には少なくはないのは市長も御存じだと思うんですね。そういった意味で、市長自身、前回ダブル選挙を経験して、今回も恐らくダブルになろうという想定なんですけれども、そのダブル選挙について、市長自身のお考えはどうか、お聞かせ願います。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 議員は議員、市長は市長で別々にやるべきだという意見があることも承知しておりますが、しかし、ダブル選挙をする場合と別々にした場合での経費の問題がかなり大きなところでありますので、私もダブル選挙になるのではとっております。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） 市長も経費の削減ということをございましたけれども、総務課長にちょっとお聞きしたいんですけれども、恐らくダブル選挙になったら市長の50日以内の期日を考えていくと、6月11日が投票日になることはほぼ間違いないと思うんですね。そういった意味で、また議員が、6月11日になると、9、10ですか、議員の任期は6月8日でございますので、2日間また失職するんですね。もう2回も議員が失職するなんて全国的に例がありますか。総務課長のわかっている範囲でお聞かせ願いたいんですけど。

議長（真井紀夫議員） 総務課長。

総務課長（下村新吾君） 全国的に2期続けて失職するという例は、私も今、手元に資料がございませんので軽々にお答えできませんが、前回平成25年の選挙におきましては失職期間を一日でも少なくしたいという思いで、そういう日程を組んだと思うんです。

前回、これをさらに1週間延ばしておれば、今回、失職ということはなかったとは思いますが、前回は一日でも失職期間を少なくするというのでそういう選挙日程を組んだとっております。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） 確かに、前回はできる限り議員の失職期間を短くして50日以内に合わそうと選挙管理委員会の皆さんが議員の立場を考えて決定してくれたことだったと思うんですけれども、当時、僕は全協の席で、この際もっと失職して

市長選挙に近づけるべきではないのかというような意見を述べさせていただいた経過上、僕も現実には反省しておるんですけれども、何で4年後の日にちを精査せんなんかなんかと思っ。そういった意味については、ある意味では見通しの甘さがこういう結果になったということは否めないと思うんですね。専権事項は選挙管理委員会ですよ、選挙の決定は。それはいたし方ないことであるということ御理解をさせていただきますが、やはり、先見の明を、先々のことをやって判断していくということで、今回の市議のほうのダブル選挙の失職について、身をもって、僕も反省をしておりますし、行政側もやはり深く反省をしていただきたいなという思いがありますので、今後の失効については、次の次はないですよ、もうこれからずーっと失職する期間はないと思いますけれども、今後とも、そこまで慎重に構えていただきたいと思います。

もう時間が差し迫ってしまっ。

それと、道の駅なんですよ、市長の。市長は道の駅については、現在の場所では機能と市内への誘客として不適當ではないかというような、議会の声ですか、それとも市民の声を踏まえた上で、見直しも必要であるという答弁をいただいたんですけれども、市長の気持ちというのはやはり市民本位の気持ちをいただいてのきのうの見直し発言に至ったんですか。いま一度確認をいたします。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 現在の防災機能とか機能で言えば、前にお示した場所が最適だとは思いますが、議会の御理解とか、やっぱり市民の御理解もいただかなければなりませんので、その場面において、やはり機能の見直しとか役割の見直しとか場所の見直しについても当然やっていかなければならないと思っております。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） 僕は、あそこの場所的にはベストではないというようなことを再三申しておりました。当然、商工会議所さんもフルインターというのが一つの道の駅の施設には大きな条件闘争の一つであったことは現実なんですよ、これは。そういった意味では、僕自身の考え方としたら、市長の方向転換の大英断については歓迎するところですよ、僕自身の考えとしてはね。それでも、5年間、終始あそこだ、あそこだ、あそこだというような、市長が説明をされてきたと思うんですね。そういった意味では、昨日の機能の見直し、機能の見直しは当然考えられることですので、どこの場所であっても。場所を大きな白紙に再検討してもいいですよというような考え方というのは、市長1人の判断で言ったのか、それと

も市役所全体の考え方なのか、いま一度お聞かせを願いたいと思います。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 方向転換というよりも、要するに現状にお示ししている機能であれば、現在の場所が最適だとは思っております。しかし、皆さんの理解を得るとかそういったことも含めて、みんなで協議した中で、機能、場所、そういったことも含めて一から検討すべきであるということになったわけでありまして。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） 機能を踏まえてなったわけで、市長個人の考え方かなと思うんですけどもね。そのようなあれですか、市長。道の駅、市長の政治公約でしたよね、大きな。2期目は辛勝ながらも道の駅の建設を公約に挙げて、対候補者に市長は勝ったのも事実でございます。それでも、先ほどの市長のお言葉を聞いておりますと、こういった状態でこの道の駅の考え方で選挙戦を戦えるのかなという一抹の不安を感じてきました。

岩田市長は意外に頑固な市長だということで、僕も頑固な市長だなと思ってるし、こうも簡単に軌道修正されると拍子抜けするんですけども、僕としたら、考え方が近いところへ近づいてくるので歓迎したいんですけども、一つ、そうすると、もう市長のやりとりから、道の駅について僕から提案させていただきたいと思います。

この際ですので、道の駅にこだわらず、よく村田議員さんやとか、三鬼和昭議員さんが海の駅として整備したらどうかというような、やっぱり一方でもそういった声も現在も根強くあるんですよ。萩のシーマートですか、港周辺につくっておる道の駅というのは。勘違いでしたら訂正していただければいいんですが。あそこなんかはかなりの5億、6億の水揚げがされて、港のほうへ来ていただいておりますという現実もありますので、できたら、この際ですので、市民文化会館の前、港湾地域ですね。結構あそこはスペース的にも十分広さがあると思うし、これから港町じゃなしに都市計画道路、光ヶ丘に向かう、あれも恐らく10年以内に完成すると僕は思いますので、ぜひともあそこの一角へ尾鷲市の海の駅的な食の拠点を兼ねた施設をつくっていくのが、僕は尾鷲の将来設計として描きやすいんじゃないかなという思いがありますが、いかがですか。切りかえをしていただくというのは。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 三鬼議員、村田議員からも再三御提案いただいております、

そのことは、食のまちづくり計画の中で取り組むべきこととして食の拠点を掲げておりますので、まずはソフトを進める中で、民間のノウハウとかそういったものいただきながら実現に向けて進めていきたいと思っております。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） 食の拠点づくりでも、まさに最適地じゃないかなと、僕はあそここの一角、スペース的に見ても、場所的に見ても、交通アクセス的にも最高だなというような思いがするんですけれども、その件については、また自分なりに再度勉強もしていきたいと思えます。

それと、きょうが12月7日、防災の日、大震災の日ということで、72年前の、市長も先ほど答弁で言われましたように、津波浸水域の川原町地区の5地区の自主防災の方がきょう午後7時から避難訓練を実施するわけなんですけれども、そういう意味で、尾鷲市として防災の日と定めるつもりはございませんか。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） その必要性は十分感じております。ただ、その日をいつにするかというのはまたちょっと考えなければならんと思っておりますけれども、市民の皆さんの防災減災意識を常に持っていただくということから考えても、防災の日の設定は大変有意義ではないかなと思っております。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） この日を防災の日に設定して、大々的に訓練をやっているというのは、大紀町の錦なんですね。あそこの谷口町長は、防災に対する減災対策、思いが強く、最近も平成20年にシェルター方式の津波タワーを港の近くへ建設して、500人ほどできる津波タワーを二つ建設されておるし、錦のすごいところというのは、地震が揺れてから5分以内に全住民が20メートル以上の高台に避難できる整備をしております。これは尾鷲市としてもぜひとも僕は見習うべきだなというような強い思いがいたしております。

それと、その津波タワーに入るんですけれども、やはり前回東日本で亡くなった、行方不明も合わせて約2万人の方のうち、高齢者の方が65%を占めておるわけなんです、亡くなった方の。その中で全体の90%が津波にのまれて亡くなったようでございます。やはり社会的弱者というのは俊敏な行動ができないということで、やはり港に近い地区でも、最低二つやそこら、僕は、津波避難タワーが要るんじゃないかなというような強い思いがいたしておりますし、市長、地域の方と話し合いを進めながら津波タワーについては前向きに考えていくとの返事

なんですけれども。

本来ですと、来年度から一つずつ3カ所つくる予定だったんですね、過疎計画書によりますと、2億円をかけて。今回市が間違っただけというのは、僕は、公共用地を主に津波タワーを建設しようとした考え方が、ある意味ではおくらせてしまった原因の一つではないのかなというのは強い思いがいたしておりますので、ぜひとも浸水域の地域の方と十分な話し合いを進めた上で、ぜひとも早く建設できるような方向を示していただきたいと思っております。

それと、避難路の確保というのが最重要課題ですね、今度は。中村山へ逃げるにしても、どこへ逃げるにしても。そういった意味で避難路についても、もう今にも壊れそうな家屋というのは、僕の知っておる限り、中井町と土肥又の前あたりで、2軒の獅子岩みたいにかぶってきておるような、軒先を通れないような状態の家屋があります。そういった家屋はいつまでも放置するんじゃないしに、市の防災対策事業として何らかの形で整備できないものですか、お伺いしたいと思っております。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） その件に関しましては、特定空き家ということで、市民サービス課のほうで建設課とかみんなと連携しながら、今、所有者に対して通知をしたりやっている最中でありまして、防災対策として主要幹線道路についての耐震の推進等はやっておりますけれども、今のところは特定空き家として市民サービス課のほうで撤去をいよいよ進めていきたいと思っております。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） ぜひとも、市民サービス課長、一日も早い防災関連施設としてのおそこの利用をしていただいて、より安全な避難路の確保をしていただくよう、早急に取り組んでいただくことを強く要望いたします。

それと、話が飛び飛びするんですけれども、庁舎の耐震の問題なんですけれども、先ほど建設課長は約600万ほどで庁舎の耐震診断ができるということで、意外に安い金額でできるんだなというような思いがしたんですけれども、これはあれですか、市長、この耐震診断というのは、新年度当初に盛り込むおつもりなんです。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 先ほども言いましたように、三重県のほうで災害時の必要な建築物として指定されれば、新年度でも可能となると思っております。指定され

ば、素早く予算計上をさせていただきたいと思っております。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） ぜひとも当初予算に盛り込んで、国、県のほうと有利な起債を受けられないか、ぜひとも事業化に向けて進んでいただきたいと思うのが1点と、この際ですので、市庁舎内部で庁舎検討委員会などを設置していただいて、いろんな幅の広い減災対策、事前復興対策として市庁舎の役割というのは想像できないぐらいのあれがあると思うんですね。そういったものを、ぜひとも僕は庁舎で建設検討委員会をつくっていただきたいという強い思いがあるんですけれども、いかがでしょうか。

議長（真井紀夫議員） 総務課長。

総務課長（下村新吾君） 庁舎整備の検討委員会というのは、平成26年7月に設立しておるんですが、いわゆる財源的な問題のところでストップしております。そういったことで、現状と課題、それと今後のスケジュールを立てていく上で財源の確保が大事ということで、先ほどから説明しているとおり、国や県の御支援がいただけないかというところへ今進んでおるところでございます。

議長（真井紀夫議員） 南議員。

8番（南靖久議員） えらい僕の認識不足で申しわけございませんでしたけれども、やはりその動きが見えていないんです、はっきりと言って。そういった意味で、もっと真剣味を持って、市民の要望が、今、庁舎建設というのが一番高いんですね、津波タワーと匹敵するぐらいに。そういった意味では、僕はもうぜひとも、計画してからやはり庁舎の整備までには数年かかるんですね。新宮市役所なんか、阪神・淡路のときに耐震をして、今なんです、来年の6月完成するんですけれども、6階建てで約34億かけて、そのうち合併特例債が24億出るということで、防災機能も備えた立派な、足場を外したらもうじき見えてくると思うんですけどね。ぜひともまた新宮市役所のほうへ行ってお話を聞きたいなという思いがするんですけれども。ぜひとも庁舎の整備については、津波タワー同様に優先順位トップとして挙げていただきたいと思います。

それと、リニアックなんですけれども、今、市長は、病院経営は大変厳しいと、当然皆さん御承知ですよね。その中で、病院会計だけの整備は恐らく無理であろうと。当然無理なんです。当然、病院の整備事業をする場合は、市の一般会計から2分の1の持ち出しを必要とするというのも、ある程度総務省からの通達で出ているのも市長、御存じだと思うんですね。病院独自のあれでは多分、今の経

営ではできません。

そういった意味で、僕は病院の関係者の皆さんと先日お話しさせていただいたんですけれども、今の人口規模、東紀州地の尾鷲を含む診療圏の問題で、リニアックを更新するのであれば、今の時期が恐らくベストの時期じゃないのかなというようにお話を聞かせていただきました。

それというのは、あと15年もたってしまうと物すごい人口減少なんですね。そういった意味では、リニアックに対する患者もどんどん減るということでございますので、経営的にも非常に苦しい数値しか出ないということで、今現状、現在スタートすれば、まだ10年や15年、50人ぐらいのリニアック患者が見込まれて、どうにかこうにか病院経営としても減価償却が終わった時点で成り立っていくんじゃないかなというようにことをお話ししておりましたので、本当に今がチャンスだと思います。

それと、きょう、たまたま新病棟建設当時の事務長さんとお会いしまして、リニアックのことを聞いたら、リニアックをつくる時は紀南病院との話し合いがあったんやということで、そのとき紀南病院は脳外科を、僕のところは専門に受け持ちますと、尾鷲市のほうはぜひともリニアックのほうを進めていただきたいと公益的な話し合いのもとで当時の杉田市長が決断をされたと聞いておりますので、やはり前立腺患者なんか2カ月松阪、泊まり込みだそうですね。部位によって放射が違うんですけれども、そういった意味では数十人の患者が現実でも他市の病院へ通われておるということで、ぜひともリニアックについては、予算化をしていただきたいと心からお願いをいたしまして一般質問を終わります。

議長（真井紀夫議員） 答弁はよろしいですか。

8番（南靖久議員） 答弁もいただきたい。

議長（真井紀夫議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 私も南議員と同じように、リニアックの必要性は痛感しております。しかし、議員がおっしゃられたように繰り出しの話ですね。それと病院自体のリニアックを整備するに負担しなければならない経費、この辺を考えますと大変厳しいところであります。

濱中議員の質問にもありましたように、東紀州の地域医療構想の中でがん治療がどのように位置づけされるのか、ちょっと注意をして見ておったんですが、この辺の記述がありませんでしたので、県のほうにも今申し入れをしているところであります。

そういった中で、やはり今の段階でやるということは簡単な話ですが、しかし、24時間365日の救急体制も堅持しなければならない。そういう中で判断しなければならないという苦しさというのも御理解願いたいと思います。

議長（真井紀夫議員） 簡潔にお願いします。南議員。

8番（南靖久議員） 当然、財政的に一般会計も業務も厳しいのは十分承知でございますので、やはり人の命、やはり政治は人の命を預かるのも一つの大きな使命でございますので、病院の財政的な苦しい中での位置づけというのは、やはり最上位に持っていくべきであろうと考えておりますので、市長もその意を酌んで、ぜひとも進めていただきたいと改めて要望を出します。ありがとうございます。

議長（真井紀夫議員） ここで10分間休憩いたします。再開は11時15分といたします。

〔休憩 午前11時03分〕

〔再開 午前11時14分〕

副議長（濱中佳芳子議員） これより私が議長の職を務めさせていただきます。

それでは休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、1番、真井紀夫議員。

〔1番（真井紀夫議員）登壇〕

1番（真井紀夫議員） 一つ、最近の市長は何を考えているのか。二つ、尾鷲総合病院の課題も棚上げか。この2点を軸にして、私、久しぶりに一般質問をさせていただきます。

ほとんど議員諸侯がきょうまでに言われておられたことがこの中に入っておりますので、何回か重複するかもわかりませんが、一つよろしくお願いをしたいというふうに思います。

今定例会の冒頭に、市長はいつものごとく所信表明をされましたが、その大半は尾鷲市議会の各常任委員会で報告、説明されて、十分その意が通じることだったと私は思いました。

しかし、道の駅に関しての所信は、これまでの経緯から考えて理解しようとはしましたが、市長は一体何を言わんとしているのかよくわからず、私のみならず多くの議員からもよくわからないとの声が出て、急遽全協の場を持った次第でありました。

真意はどこにあるのか、道の駅の計画は棚上げかと尋ねましたが、市長は先送りしたのだと答えただけでありました。今もって釈然としない所信表明、道の駅

の始末だと私は思っています。

また、先月の記者会見の内容を地元新聞で私は知りましたが、実におかしな市長の見解と自画自賛の姿に、尾鷲市を代表する市長かという市民の声が私の手元に届いています。来年の次期市長選挙を市民は早くから取り沙汰をしています。ことしに入って新人2人の立候補予定者があらわれたことを、岩田市長は異常な尾鷲市だと非難されました。

市民目線、市民感覚は、これから半年後までの市長選はどうなっていくか真剣に見ているのは当然のことだと私は思います。尾鷲市が異常だという岩田市長の言葉の意味がよくわからないと私はつくづくそう思います。

市長は道の駅について、ことし3月の議会で28年度事案として規模や機能そして建設費用などを明確にするといいました。それが今になって、来年の市長選を絡めて凍結だの先送りだのと言い出したことは釈然としません。理解できません。市長選が来年行われることは百も承知のはずです。自分は諦めていないが先送りするというのは、市長選には誰も出てこないことを想定していたからなのだろうか、立候補予定者として2人の新人があらわれたため異常な尾鷲市だと批判したことで、市長の腹の中を見透かされました。

市長の言うことは、一貫性がなく自分本位で市民を惑わすだけだと思います。一体何を考えているのか市民がわかるように説明をしていただきたい。

次に、我がまちを生き生きとしたまちにするために、尾鷲市への移住を進めて人口を1人でもふやさなければなりません。市外への移住を減らすための方法を考えるのも当然です。その第一のとりでが尾鷲総合病院の整備充実になります。

病院が整っているかどうか、救急診療は大丈夫なのかというのが住民にとって最大の関心事であることは言うまでもありません。その課題にどのように取り組んでいるのかお聞きをしたい。

特に一昨年の平成26年4月には、三重県のがん診療連携推進病院に指定されましたが、一番肝心の医療設備リニアックが15年以上経過し近々使用できなくなると、三重大学の教授や医師、病院スタッフ、患者、多くの市民から早く整備するよう求められてきました。そして、17年目のことし4月、ついに寿命がつき放射線治療ができなくなりました。市長はなぜか病院のことについて理解が薄かったように思います。

病院管理者である市長は、一時借入金をする病院経営が続いているからと、また、市財政全般に影響があり、市の事業選択などバランスを見きわめているので

今後の検討課題だと言うだけで、リニアックの重要性を無視してきたと言えます。

また、現在の結果を見る限り、国や県からの補助金を探したがないからとして放置されてきたと思うばかりであります。

今定例会での市長の所信表明は、この病院の課題について一切一言も述べられておりません。東紀州の中核病院としての役割を返上するつもりなのか、三重大学医学部との関係が壊れていいのかという市民や病院関係者の心配する声が聞こえてきます。これまで病院のこと、リニアックのことを早く行うよう決断するよう申し上げてきましたが、市長は考えると言うだけで確たる返事がありませんでした。何か言うと大学にお願いしてあると言うのが市長の返答でありました。

その大学の医学部教授だった登先生、そして放射線教授の野本先生が尾鷲総合病院のリニアックについて大変心配されて、私ども議員や市民の皆さんに一生懸命たびたびに説明をしてくださったことは今も目に浮かびます。しかし、尾鷲市は今もって前向きな返答をしていません。医学部外科の教授先生もあきれていると聞きます。

教授や医師の皆さんから愛想をつかされても仕方がないでは済まされません。尾鷲市にとって何よりも大切な救急と医療、病院の存立を市民に心配させてはならないと考えるからであります。この問題は市長のやる気と熱意だけだと思います。

何か言うと、予算が、財政がと岩田市長は言います。市民の税金を何に役立てるかという決断が物を言うのではないかと、私は強く申し上げたい。国から毎年いただく予算、交付税の中に病院に対する交付金が入っており、その半分ほどを市の一般会計に入れて、残りの半分ほどを病院に繰り出してきた長年の事実を市長は御承知しているかお尋ねをします。

尾鷲市は別にして、三重県下の自治体病院は8カ所ありますが、国からの病院に対する交付金にその各市町の自治体予算、市行政のお金を積み増し加算して、それぞれの病院経営を大きく支えていることを市長は御存じですか。三重県の中で1番の収支成績を上げてきた尾鷲総合病院ですが、いよいよ尾鷲市も他市のようにならなければならない病院の状況ではないかと考えます。この際、岩田市長の見解と覚悟のほどをお尋ねいたします。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

〔市長（岩田昭人君）登壇〕

市長（岩田昭人君） まず道の駅につきましては、現時点における施設整備方針の決定は避けると判断したものであって、第6次尾鷲市総合計画後期基本計画におい

でも記述しているとおおり、本市にとって必要な施設であるとの基本的な考えについては何ら変わりはありません。しかしながら、本定例会に関連予算を計上しなかったこともあり、その説明責任を果たすため市政報告において報告させていただいたものであります。

次に、先日の記者会見での私の発言につきましては、中平議員からの質問にお答えしたとおおり、次期市長選挙に際し、政治活動として事前の運動が行われていると思っておりますが、選挙運動とみなされるような運動は差し控えるべきではという趣旨で発言に至ったものであります。

次に、リニアックの更新についてであります。現在、尾鷲総合病院の経営が極めて厳しい状況が続いている中で、更新によりさらに病院経営が厳しくなり、病院運営そのものに支障を来すことが予想されることから、病院事業会計独自の更新は難しいものと考えております。

また、一般会計におきましても厳しい財政状況でありますので、事業選択の優先順位の中で決定していくべきものと考えております。

繰り出しの件であります。御存じでしょうか。私、市長になって平成21年に2億5,000万の繰り出しに12月補正で7,000万積みさせていただきました。それと、22、23については2億5,000万でございましたけれども、24年度からについては、ちょっと下回っておりますけど、ほぼ基準どおりに近い数字で繰り出しをしております。それと、今年度につきましては、指定の繰り出し基準プラス1億円を追加して繰り出しをしているところであります。

やる気と熱意で何でもできるということであれば簡単なことでありますけれども、私もリニアックの必要性については十分把握しております。やる気と熱意で処理できないから、みんなが苦しんでいるところであります。リニアックも大事であります。24時間365日本体の運営も、またこれも大事な話であります。その中で我々は苦勞をして今議論しているところでありますので、何とか御理解を願いたいと思います。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 順を追って、市長に2回目以降の質問をさせていただきます。

まず、先に道の駅についてであります。今回のこの本会議で、今までにない市長の見解が示されております。

そのことについては、私は、先ほど南議員も言っておりましたけれども、だんだん市民の考え、議会の考えに市長はちょっと近づいてきておるのかなというよ

うに感じておりますけれども、きょうはそれとは別にしまして、市長はこれまで道の駅は南インターの奥側につくりたいとしているけれども、要するに高速道路を走ってくる自動車に寄ってもらいたいと、そういうことから南インターをフルインターにしてもらうようお願いしていくんだと、そんな説明を何回かされたように思いました。このフルインターにしてもらいたいということについて、国交省とどんな話し合いをされてきたか、そして、どういうことになっておるか、まずお答えいただきたいと思います。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） フルインターについての要望は、国交省に対して道の駅の建設要望するとき、まず一体型の整備をお願いしたい、それとあわせて、フルインターの要望をお願いしたところであります。その中で、例えば道の駅であれば、そのフルインターも含めてさまざまなパーキングエリアとかの、高速道路からも降りられる、一般道からも入れるといったような形での形態も含めていろいろと議論をしてきたところであります。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） このことに関しまして、市長、2年も3年も前からの話やと思うんですね。フルインターにさせていただくようお願いするんだということやったと思います。議論をしてきただけでは何にもならんじゃないですか。どういう結果が今出ておるんですか。だめなんですか。国交省はフルインターにできないと、こういうことなんですか。それともちょっと待ってくれということなんですか、その辺、はっきりしてください。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） こっちこそちょっと待ってもらいたいんですが、例えば道の駅をもう決定しました、議会で予算も通りました、じゃ、これでいきますのでお願いしますという話であれば、国交省も回答はできると思いますけれども、道の駅をやりたいんです、一体型整備でお願いします、フルインターもお願いするという中での回答というのは当然できないということであります。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 道の駅といいますけど、市長は、命の駅、防災拠点と言うておりました。これは、国もこの防災拠点についてはしっかりと理解をしておるんだと、こういうことでありました。

ですから、この防災拠点が本当に国が言っておるかどうかということも私らは

市長に聞かなわからんことなんですけれども、今回そのことも含めてだめだったのかなと、それで道の駅は凍結、先送りということになったのかなというような推測する考えも言われております。

市長は、道の駅の計画を進めんもんでフルインターにしてくれんのと、今そんなような言い方をしたんですけれども、そういうことですか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 相談を受けるほうとして考えてみてください。例えば、道の駅を尾鷲市が整備することを決定しました。場所はここです。それについて、国交省も一体型整備あるいはフルインター等の検討してくださいという話であれば当然具体的な検討に入るでしょうが、しかし、今の段階でやりたいんですというだけの話と、それから道の駅の重点候補にいただいた、これは防災拠点の道の駅でなしに、防災拠点の機能と、それからゲートウエーの機能を持った道の駅をつくりたいということで重点候補に認めていただいておりますので、この進展を持っていかないことには国交省の回答のしようがないと思います。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 市長は初めから自分で答えをつくって思うておると違いますか。国交省がそんなことを言うたんか言わんのかって、だろうと思いますというような答弁しか返ってきませんけれども、尾鷲市としては、小原野を5年から10年か知らんけど無償で提供して協力しておるんですね。そういうことからして、えらい国交省がそんなに冷たいんでしょうかね。私は、きちっとしっかり頼んでないもんで返答が返ってこんじゃないかと今そんなふうに強く思います。

その辺のところをもっとしっかりと国交省と話し合いをしてもらいたいと、このように要望しておきます。

それから、もう一つ、きのう、私、午後から現場を見に行ってきました。あれは、数十台か100台以上かな、10トンダンプがどんどん入れかわり立ちかわり入ってきて、そして、様相がどんどん変わってっております。しかし、確かに場所は広い。大きな場所だと私は思います。そういうことでは道の駅にはふさわしいかなと何度も見直したんですけれども、工事現場はそんな雰囲気では全くありません。しかし、車が何十台も入ったり出たりするには大変好都合な場所だと私は思った。そういうことでは、これから話が出てくるであろうごみ焼き場、東紀州の車が集まってくるごみ焼き場として最適な場所ではないだろうか、このように思うわけなんですけれども、市長、その点は考えたことがありますか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 広域のごみ処理施設につきましては、広域のいろんな相談の中でやっている話なんです。そして、皆さんにもお知らせしていますように、幾つか地域を挙げて議論をしておるという中で、また一からの話を議長が持ち出すとはとても信じられません。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） いや、話が詰まっておるのならこれまた別でしょうけれども、これから進めていく話だろうというように思いますので、そういう意味では、尾鷲のごみ焼き場を引き受けるというふうには理解はしておるんですよ。理解はしておるんですけれども、どこの場所が最適であろうかというふうに思うと、きのう現場を確認してきたら、車が何十台出入りしてもここやったら全く支障がないなど、そのように感じたものですから、一遍関係者はあの現場を確認か視察をされることは決して無益なことやないと、このように思いますので、そのように提案だけしておきます。

次に、次期選挙について、ことしの春と秋に、次期市長選について、市長もあなたの後援会が百数十名集まって、それで奥さんも出席されて、今後ともよろしくと市長のメッセージを紹介されたと新聞にありました。先ほど南議員も言われておりましたけれども、新人のお二人も挨拶で動いていると言いますが、お互いさまではないでしょうかね。その辺のところ、市長、どうですか、お互いさまでしょう。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 私の後援会活動は、許された政治活動の中でやっている話なんです。ちゃんと認められた行動ですよ。何も私は恥じることはありません。そして、よろしくこれからも御支援をお願いしますという話は、当然その前にしているのが、市政も課題が山積しております、その御支援をお願いしますということでもありますので、市政の推進について御協力をいただくのは当たり前の話ではないかと思っております。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） このことを議論してもいたし方ないですけども、市長自身がそしたら正常で、お二人の動向が正しくないから尾鷲市の異常なんだという発言は間違った発言ではないですか。もう一度お尋ねします。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 皆さんに、要するにちゃんとした許される公選法で詳細にいろんな活動が決められております。その中で許される活動であればどんどんやってもらっていいと思います。私は、そうじゃなしに、事前活動に当たるようなものはやめましょうねという意味の発言でありますので、御理解願いたいと思います。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） このことは置きましょう。

次に、尾鷲総合病院のことに關しまして、市長、私、市長の時代になって繰り出しが少しずつふえていったと、ことは4億を超える繰り出しとなったということは私も十分承知しております。承知しておりますが、長年と申したのは、10年、20年、30年前からそういう形で尾鷲市は来たと、そして、それが累積赤字という形で、新会計でまたそれが圧縮されましたけれども、そういうことで来た総合病院であるということは十分御承知だというふうに考えてよろしいですか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） ちょっと待ってくださいよ。議長は前説で、そのあたりの話は、全然私は関係ないんだというふうに聞き取れますけれども、それは議会も認めてやった繰り出しでありますので、それは、私は承知していますよ。承知していますけれども、それは確かに正規な繰り出し基準で繰り出ししておれば、今、尾鷲総合病院は日本に誇れる立派な総合病院になっていたと思いますよ。しかし、現実とは違うわけでしょう。それを知っているかという話はちょっとおかしいんじゃないですか。それは議会も一緒になって議決していただいた予算でありますので、私は全然関係ないというような話での物言いに、私は、失礼ですが聞こえてしまったんですが、それはちょっとおかしいんじゃないかなと。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 私は、自分は関係ないとは言わんです。私も30年以上前から、そのことについて当時の病院院長、当時いろんな院長先生がおりましたけれども、伊藤先生という方の時代には黒字になって、その後田邊先生という方の、それは30年前の話ですけれども、赤字になっていったと。そのときに病院交付金を丸々渡してほしいということでありましたけれども、その辺は何とか病院をやっつけていかれるという形の中で、しばらく病院交付金を丸々渡すというわけにはいかなかったと、それがずっと続いて岩田市政まで来たんやと、こう思うんですね。

そういうことの状況の中で、尾鷲総合病院の三重県下の中での成績はどうかというたら、常にトップの位置にあったわけですね。それでも、なおかつそういう形になったということは、これはこれで、私は行政として、市政としてよそ並みに何とかあの病院を支えておいたら、今もう一つよい病院になっただろうなど、そういう反省はあります。反省はありますが、そのことを市長も知っていただいておりますかどうかということでお尋ねをしたんです。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 知っているからこそ繰り出しをふやしているんですよ。それ以上のことは言えませんけどね。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） ということは、私が今言いたいことは、そういう形で今現在ある尾鷲総合病院をここでもう一遍支え直さなければならんと、こう思うんですね。でないと、このままでいくと市長の言われる365日24時間救急体制も崩れていくのではないか。そして、リニアックの患者が今大変困っておるようですが、今後そういう意味では、この尾鷲総合病院の特徴がどんどん崩れていってしまうということをどうしたら支えられるか、どうしたら総合病院の存立をしっかりとしたものにいけるかと、今こそ考えないかんときが来ておると、こういう危機感の中で市長に尋ねておるんです。

そのときの市長が岩田市長だと思えるんですけれども、そういう意味では、ここで思い切った決断をしなかったら、近いと言うて、ここ一、二年、二、三年のことやと思えるんですけれども、私は、総合病院の医師不足だとか人材不足だということも発生してくるのではないかと考えておるんですけど、その辺は、市長はどんなふうに思っておりますか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 尾鷲総合病院の医師の先生、それと事務局も含めて、今、一生懸命になって病院経営に取り組んでもらっております。医師不足についても、今のところ三重大学附属病院、それから伊勢日赤と、あるいは紀北医師会の御協力を得ながら、24時間365日の救急医療体制を堅持していただいていることについては、本当に頭の下がる思いであります。

確かに、今が病院経営を考える一つの大きな転機かもしれません。その中でリニアックを入れたいの私もやまやまであります。しかし、平成の大合併で合併を選択しなかった、そのことは今になって財政的に厳しいという話は、これは皆

さん、理解していただいているところでもあります。その中で、病院運営が大変厳しいけれども、24時間365日は一つの、三重県でここだけですので、それは堅持していきたい、そういった中で特徴を出していくのも一つの方法ですし、それにリニアックを入れることについては、もとの本体の病院経営、それから市役所本体の財政面のことも考慮しながらやっていかなければ共倒れになる可能性もありますので、そのことを我々は真剣に議論をしているところでもあります。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 市長は御存じないかもしれませんが、約10年ぐらい前になりますかね。総合病院から産婦人科の医師がいなくなって大騒動になりました。また、そのようなことが起こらないか、病院の運営が大丈夫と言えるか、私は大変……。

副議長（濱中佳芳子議員） 真井議員、少々お待ちください。

後ろ、静かにお願いいたします。

どうぞ。

1番（真井紀夫議員） 心配しておりますが、市長、その心配はあなたにはないですか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 心配するよりも実際にいろいろ行動を移して、医師確保に努めるというのが大原則であります。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 常に医師確保に努めるというのは、当然のことだと思います。ところが尾鷲市は、特に市長の姿勢は、登先生がもう本当にうるさいほどリニアックを早くせないかんというような話、それから、野本教授が今、週末にちよくちよく来てくれておりますけれども、この先生もどうするんだと、尾鷲市はと言っているんですね。その上に、ここは、私、まだ会っていないのでお名前は控えめですが、三重大の外科の教授が大変心配しておられると、そういうことで、来月には何か有能な人を送ってくれるという話もちらっと聞いておるんですけれども、いずれにしても、ここまでよというような空気が伝わってきます。それで、病院関係者からの言葉もそういう言葉が出ております。

市長はその辺のところを病院としっかりと対話しておりますか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 本当なんでしょうか。そのような話は聞いておりません。要す

るに、今議長の言われるのは、三重大学がもう今にも医師派遣をやめるというような発言をされましたけれども、それは本当なんですか。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 会われたらどうですか。野本教授にも、そして、病院のこのことを一生懸命に言っておった前院長の加藤先生にも、そして現在の院長の小藪先生にも、そして、特に外科の若いお医者さんが大変心配しておりました。このことに関しては、後ほどもう一つ市長に提案したいと思っておるんですけれども、会っていないからそんなことを言うておるんでしょう。会われたらどうですか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 先日も小藪先生とは話をしたところでありますし、全然会っていないという話じゃないですよ。野本先生には会っていないですけども。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 大学側がどんなふうを受けとめておるか、考えておるか、私も大学へ行って聞いたわけじゃないですけども、しかし、教授先生のお話を聞けば、その辺は市長は、あなたは賢い人ですからそれなりにわかると、こう思うんですがね。そういうことでは、私はもう限度に来ておると、尾鷲市のこの病院に対する姿勢、その辺を市長に尋ねておるんですけども、毎週か隔週か知りませんが、尾鷲総合病院にお見えになっておるとのことですから、会われて聞いたらどうですか。私は先日、その関係の若いドクターと3時間ぐらいいろんな話をして伺ったんですけども、そういうことでは尾鷲の救急体制まで大きく響いてくると、このように心配しておりますが、いかがですか、市長。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 心配するのは当然だと思います。その心配に今答えられるかどうかという話は、それは今の病院の財政状況、それから市の財政状況を考えて、なかなか厳しいということであります。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 病院は大事やということは誰でもわかっておると思うんですね。子育てするにも、企業誘致するにも、そして、人材確保するにも、育成するにも、住民の命、市民の命、外来者を招いても集客の皆さんの安全、何を計画しても病院があつての今尾鷲市だと私は思っております。

安心を提供して、赤ちゃんからお年寄りまで命と健康を守るのがまず何よりも大切であり、その一番の拠点が病院だと思うんです。ましてや三重県の中だけで

はなくて、隣接する奈良県や和歌山県からでも患者が運ばれてくる365日24時間の救急病院です。尾鷲病院を守れるか守れないか、私は市長の決断にかかわっておると、こう思っておるんです。そういう意味では、このリニアックの問題というのは大変大きな重い問題です。

これは、一説には3億ほどかかる設備だと聞きますけれども、そのことについて、尾鷲市はお金がないと言うけれども、これは病院事業債でやれば半分、後日ですけれど、半分返ってくるんですね。半分は市が持たんならん、病院が持たないかんことですが、病院事業債を使えばそれで済む。過疎債を使ったら7割国が負担してくれるんですね。3割を市なり病院なりが負担をしたらええと、そういうことなんですけれど、その辺のことがあるのに補助金がない、何がないとこういうことで、それでは財政がということ、財政自身も財調が少ないなりにも3億の用意はできますわね、そういう意味では。なのに何かほかのことをやらんなん、こっちのことをやらんなんというて病院のことを見送ると、私は、それは許されないと思うんですね。病院を何よりも最優先してやっぱり取り組まんと、それこそ病院が傾きかけたらとめる手だては大変なエネルギーが要る、また、とめられるかどうか知りませんが、そういうことを心配するので市長の決断を求めらるんです。

どうですか、市長、その辺のところは。

(「市長、市長、事務長にもこの内容を答えさせたらどうですか。財調についても説明したつたろ」と呼ぶ者あり)

副議長(濱中佳芳子議員) 市長。

市長(岩田昭人君) 病院を守れるか、守れないかという中で、リニアックの導入について、これが大きな問題なんです。そんなことがなければすぐ入れますよ。病院を守れるか守れないか、簡単に決意と熱意によってすぐできるやないかというお話がありますけれども、そんなことじゃないです。要するに、リニアックを入れるということについては、病院の存続を真剣に検討しておるからこういうふう悩んでいるところなんです。それを理解してもらいたい。

それから、もう一つは企業経営でありますので、一般の何はさておいても命の問題というのはいっぱいありますよ、議長。病院を守るというのも命の問題でしょう。非難タワーやって命の問題ですよ。避難路やって命の問題ですよ。保健所の移転やって命の問題ですよ。だからそういう中で苦しい判断を責められておるということをぜひ御理解願いたいと思います。

熱意とやる気だけでできるとかそういったものではありません。

副議長（濱中佳芳子議員） 事務長の答弁はよろしいですか。

（「よろしいです」と呼ぶ者あり）

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） ということは、これは市長の決断ができるかできないかだけにかかわっておる問題ですから、小手先でできることじゃない、確かにね、市長の言われるように。ただ、検討、検討と言うて、もうここ2年、3年既に経過しておるんですね、この問題が出てから。それで今もってほかの事業とバランスを見きわめながら今後検討していきますって、これはきのう、おとといの老人会、老人連合会の資料です。この中へ市長は返答を送っておるんです。これは、きのう、おとといに出てきた問題について、これから一生懸命ほかの事業も考えながら検討していきますというのならまだしもわかりますけど、この問題については、もう2年、3年前から言われてきた問題です。それを今もってほかの事業とのバランスを見ながら検討を続けていきますと返事しておるんです。

そんなことかと私は言いたいんです。そんな軽い問題ではない、このリニアックの問題は。そういうことの中で、それはあなたがやれないのかと。ということは、来年のやるやらんではまた1年ずれていくんですね。このリニアックはやるよと決めてからでもまだ1年以上かかるんですね、実際に入ってきて使えるようになるのが。だから私は、この12月が一つのタイムリミットじゃないかと思うんです。

副議長（濱中佳芳子議員） 真井議員、時報の間、お待ちください。

〔休憩 午後 0時00分〕

〔再開 午後 0時00分〕

副議長（濱中佳芳子議員） 続けてください。

1番（真井紀夫議員） 今後検討していきますという答弁で、老人会の役員の幹部の方々の中に、これではいつになったらやれるかやれんかわかったものじゃないとコメントをしておる人もおります。市長は来年の7月で一つ任期が来るんだらうと。そしてまた、次に市長になるかならんかわからんのですね、そういう意味では。また、3選、出るとか出やんとかということもお返事していないですけども、私はね。

そういう形の中で、市長として7年を超えて現在がある、そんな中で、あなたに、ここ二、三年しきりに求められたと思うんですよ、関係者がね。私ども議会

も何回もその説明を受けております。そして、どうしてできないんだろうとこう思ったら、これ、三重県の決算の26年度、27年度の決算なんですけれども、繰入金は尾鷲市が一番低い。しかし、ことしは、28年度は4億8,000万ですか、4億何千万で、まあまあやっと一番最低の三重県のところへ肩を並べたかなと思うんですけれども、結果は来年にならなわかりませんが、決算してみやなね。あとは、繰入金に倍をして、三倍して、皆、市の金を入れて支えておるんです。ここでは大きな四日市やとか松阪やとか大きな病院もありますけれども、ここですら、いただいてやっと帳尻を合わせておるとというのが自治体の病院の今の姿なんです。そのことを市長は理解していないんですか。

尾鷲の病院がそういう意味ではよくやっていると思う。今までそういう歴史の中でようここまで持ちこたえてきてくれたと、この尾鷲総合病院はと、僕は思うんですよ。そういう中であって、今もう一つ尾鷲総合病院の経営が曲がり角に来ておると、こう思うんです。曲がり角というか、一番厳しいところに来ておるんだろうと思うんです。それを今こそ尾鷲市行政が助けなったらどうするかと僕は言いたいんです。どうですか、市長。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 確かに今、病院は大きな転機というか見直すべきときに来ているということは、それは間違いない。それとあわせて、今まで一生懸命頑張ってきてここまでやってくれたということに対しては本当に感謝を申し上げる。ただ繰り出し基準というのは、はっきりあれですけど、どこがどう、尾鷲が一番少ないとか、いろんな要素がありますから当然違ってきて当たり前であります。だから、その中で我々としてはどうするか、どういったことができるのか、それを今まで苦勞して少しでも繰り出しをふやすようなことをやってきたわけです。

尾鷲市が、このように財政的に厳しいというふうになっておりますのは、一つは、大きなあれとしては合併しなかった、合併特例債を使えないということが一番財政的には大きな話であります。合併のよしあしとかそういう話ではなしに、財政的に見たら、合併特例債が使えないということでもありますので、それは合併しないという選択をした中で財政が厳しいということは必須の話でありますので、その中でどのような形で事業を進めていくのか、あるいはどのような形で病院を支援していくのかということでもあります。

決して回答が軽くとか、そういった話では理解をしてほしくないと思います。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1 番（真井紀夫議員） 市長、そういうあなた、財政のことを言いますけど、きのうは P F I のことを言うていましたけれども、P F I、40 万でできるのに 90 万ぐらいで市民に提供するんやと言うて計画を出してきたでしょう。計画は 87 万 5,000 やったか、約 90 万に近いなと思ったんですけど、だから尾鷲市は市民にそんな迷惑をかけられないということで議会は全員一致で反対したんですね。ごみ袋やったってそうやないですか。7 円、8 円で作れるのを業者に 17 円、18 円で作らせて、結局始末は市民の懐でもって皆、始末したんでしょう。

僕は、それから、こんなことを言いたくないですけども、あなた、箱物をいっぱいつくりました。これは子供の命を守らんなんという大義のもとに、学校や保育園や何やってやったのはわかりますけれども、子供は今少子化していくのにそんなにお金使うて、尾鷲はようけ金があるんやのうという人も中にはおりますけれども、そういう形の中で、病院は今大変なことになっていっておるということは、市長もよく御存じだ、よく聞いてみると。しかし、財政がどうの、何がこのうということで、これは今後のまだ検討やと。そうすると、5 年検討するのか、10 年検討するのか、市長はおらんようになってきますよ。市長、来年 7 月で一つの区切りなんでしょう。

そういう意味では、ようやらのならようやらんとはつきり言うてもろうたらいいんですよ。やるならやるで、この 28 年の末までに言ってもらえれば、1 年後にはリニアックが据えられておるんですね。ところが、来年やったら再来年になるんですね、据えられるのが。ですから、私はその辺のところを覚悟して物を言ってくださいよと、答弁してくださいよと言うておるんです。

財政が大変苦しんじゃないといたら給料が上げられんでしょう、職員の。市議員は 20 年間上げずにずっと据え置きでおるんですよ。そんなことはわかっているから。しかし、そうですよ、民間やったらそうなんですよ。

ところが、それだけのやっぱり余裕はあると僕は思う。余裕が市の財政の中に。だから財調がいつもないないと言いながら最後には 10 億を超える財調があるんですね。基金にすれば 20 億円を超えるんですけどね、トータルすれば。

そんな中で、この 3 億円のリニアックについて、どうけりをつける、僕はようせんのならようせんでいいんですよ。そんな市長は、私、尾鷲市に要らないと思うんです。ここまで言いとうはなかったけどな。言いとうなかつたけれども、病院を傾かされたらたまらんと僕は言うておるんです。どうなんですか。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 尾鷲市は市長が要らないんですか。私が要らないということですか。なるほど。

それから、財政的に厳しいという話はそれはありますけど、しかし、私は、あわせて言わせていただいておりますのは、病院のそのものの存続も含めて考えなければ、リニアックの、要するにそれはあれですよ、ほかの事業をやめてリニアックにみんな入れてリニアック整備……。

（「みんなやない、3億」と呼ぶ者あり）

市長（岩田昭人君） 違いますよ。ほかの事業をやめてリニアックに入れて、それでそんなことだけ言っておるんじゃないんです。病院の経営存続も含めて議論しなければ、それは無責任ということですよ。

それと、もう一つあわせて、議長は、私は箱物ばかりつくっておると言いますけれども、本当にそう思っておるんですか。これ、議決していただいてやっておるんですよ。それで箱物ばかりつくっておるといふような言い方は議長として許されるんですか、そんなことは。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 必要だと言うから議会が認めてきておるんです。ところが、事病院のこと、リニアックのことについては、何年たっても今後検討する問題やと、こう言う。きのうやきょうの問題ならわかる。ところが、2年、3年前から出ておる問題を今になってもまだほかとのバランスを見ながら検討していかなならんと、ここにはっきりと書いてある。こんな悠長なことが許されますかと言うておるんです。

お金があるって箱物もつくったんでしょ。議会も認めたんです。お金がなかったら認められない。ここの病院のリニアックのところに来ると、病院の経営が悪いから、だからこのことについては十分検討せないかと、こうおっしゃる。ところが、三重県下の中で一番トップの成績を積み上げておる。でありながら大変やということは、ほかの三重県下の病院も皆それ以上に大変なんですよ。それを市が行政が支えておるんです。

尾鷲はそうじゃなしに、これまでちょっと反対にかじってきたと一般会計のほうへ、だから病院の関係者は悔しがっております。あれがなんと、20年、30年前から変わっていたら尾鷲の病院はもっとあれやっつたと、胸張っておれたんやけど、わしら本当に悔しいと言うています。本当に言うていますよ。

（「よそごとですか」と呼ぶ者あり）

副議長（濱中佳芳子議員） 市長、お待ちください。

1 番（真井紀夫議員） だから、この際、今大変な状況になってきておると、病院経営が。だからここで尾鷲市がてこ入れせなあかんのやないかと、僕は市長に言うておるんです。だから市長の決断を求めておるんです。だけど、ようせんと言うんだったら、それはそれで仕方ない。はっきりしてください。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） ようせんとかそういうことは一切言っておりませんので、それに向けていろいろ検討しておるということであります。

要するに、本当に市サイドの財政の話も含めて病院の存続に係る問題でありますので、このことはしっかりと十分に時間をかけてやらなければならないと思っております。

副議長（濱中佳芳子議員） 1 番、真井議員。

1 番（真井紀夫議員） もう 2 年も 3 年も時間かけて検討してきたが、まだこれから何年か知らんけれども、時間かけて検討しなければならない、そんなことでよいんですか。病院は、毎日 3 6 5 日動いておるんですよ。そういうことでは、寝ておるじゃないんですよ、寝やしてあるのなら、しばらく時間の余裕をとって考えたらいいですけども、その辺のところ、市長、あなたの感覚はまともですか。その辺のところ、私は本当に心配します。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 3 6 5 日毎日一生懸命やっただけでいるからこそ、リニアの導入についてこんなに苦勞をしているんであります。

副議長（濱中佳芳子議員） 1 番、真井議員。

1 番（真井紀夫議員） 市長は病院について何を苦勞したんですか。苦勞しておる苦勞しておるって、あなた、逃げておるだけやがな。あなた、今苦勞しておるんですって、3 6 5 日やっておる……。

（「何をしておる」と呼ぶ者あり）

副議長（濱中佳芳子議員） 市長お待ちください。

1 番（真井紀夫議員） 苦勞しておるって市長は言われましたけど、何を苦勞しておるんかと聞いておるんです、僕は。

（「何を」と呼ぶ者あり）

副議長（濱中佳芳子議員） 市長、挙手してください。

1 番（真井紀夫議員） 病院について苦勞しておるんやと言われたって、何を苦勞し

ておるんですかと聞いておるんです。

副議長（濱中佳芳子議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 何にも苦勞していないということですか。先ほど、さっき何か言いましたやんか。何にもしていないって。

（「自分で言うたやんか」と呼ぶ者あり）

市長（岩田昭人君） 伊勢日赤も医師派遣でお願いに行っていますし、三重大学にも行っていますし、それから、いろんな先生にもリニアックについても意見もお聞きしていますし、何にも苦勞していないって、そんなばかなことはないですわな。

副議長（濱中佳芳子議員） 1番、真井議員。

1番（真井紀夫議員） 本当にばかな話ですね。それは、1カ月や1年のことでまだまだ調べんなんことがあるんやとか、まだまだ検討せんなんことがあるんやというならまだわかりますよ。もう2年も3年も前からの話でしょう。それだけかかっているけども、病院の存続は心配やけれども、まだまだ検討せんなんねと、そんな悠長なこと言うておる、市長、総合病院の状態やないと思いますよ、私は。今、尾鷲市がどれだけ力を入れてあそこを支えられるか、本当言うたら近隣市町村にも力をかしてとお願いせんなんけれども、その話は簡単にはいきませんわね。だから今、それは後の話として、尾鷲市としてどう支えるかと、まず、このリニアックをどう結論、解決するかというところに来ておると私は思います。市長はそれをまだこれからの検討課題ですと、ほかの事業ともバランスを見やんなんとはっきりそうやって書いてあるんですね。だから、あなたは本当の苦勞をわかっていないと私は言いたいんですよ。

以上で一般質問を終わります。

副議長（濱中佳芳子議員） 答弁よろしいですか。

1番（真井紀夫議員） よろしい。

副議長（濱中佳芳子議員） では、以上で通告による一般質問は全て終了いたしました。これをもって一般質問を終結いたします。

以後、会期日程のとおり、あす8日木曜日には午前10時より総務産業常任委員会を開催していただきます。

また、午後1時から連合審査会が開催されますので、よろしく願いいたします。

本日はこれにて散会いたします。

〔散会 午後 0時15分〕

地方自治法第123条第2項の規定に基づき下に署名する。

尾鷲市議会議長 真 井 紀 夫

尾鷲市議会副議長 濱 中 佳 芳 子

署 名 議 員 三 鬼 和 昭

署 名 議 員 南 靖 久